

# 創立40周年記念 公開研究発表会

～チーム苓北 3年間の研究の取組～

熊本県立苓北支援学校



研究テーマ：児童生徒の自立と豊かな生活を目指して

～専門性向上、教育課程の検討、キャリア教育の実践の3つの視点から～

## 1 はじめに

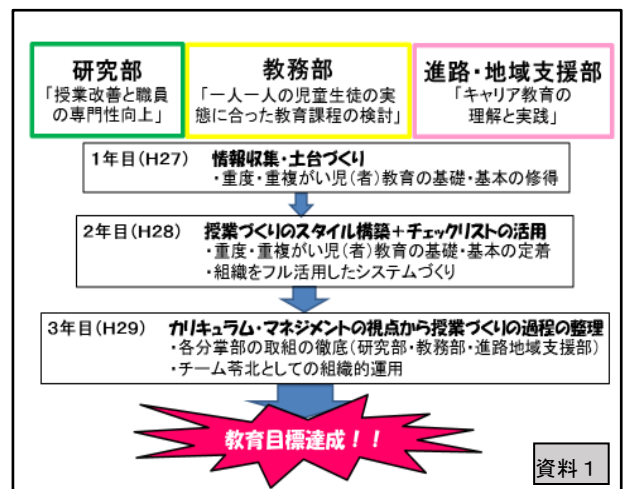
11月11日(土)に公開研究発表会を開催しました。創立40周年記念行事の一つとして職員一丸となり、3年間の研究の成果について発表しました。当日は30人程の参加者を迎え、校内は賑やかな雰囲気情報交換の場ともなり、職員も参加者も充実した一日となりました。

## 2 発表内容

昨年度までの2年間は研究テーマに沿って、研究部・教務部・進路地域支援部が中心となり、取り組んできました。資料1のとおり、1年目は「情報収集・土台づくり」、2年目は、「授業づくりのスタイル構築とチェックリストの活用」を目標とし、研究を進めました。

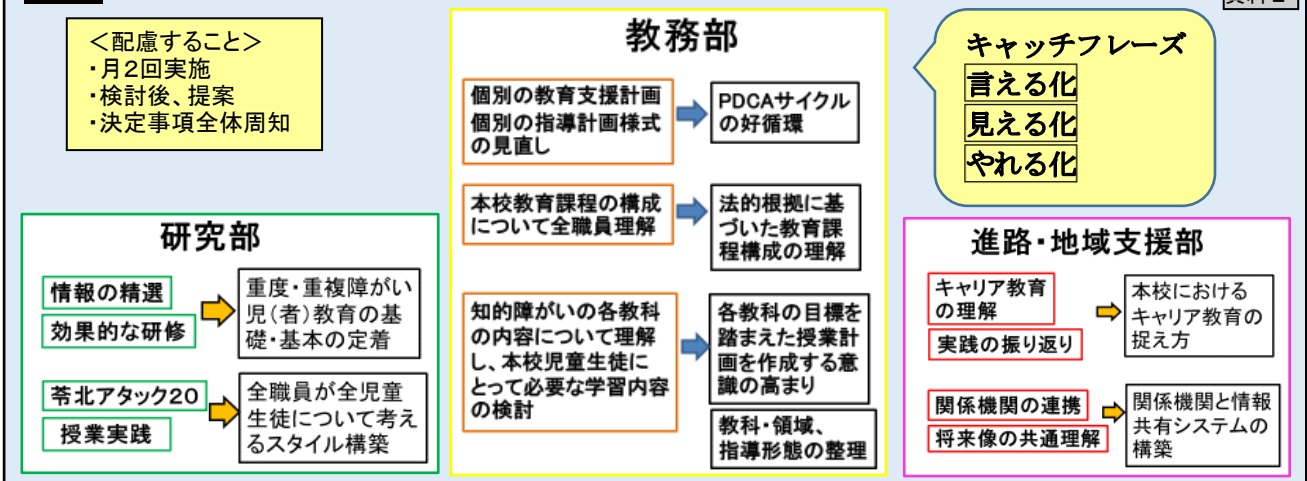
3年目になり、次期学習指導要領を踏まえて、研究を見直したところ、授業実践の取組としては成果を上げてきているものの、学習内容の必然性や将来像との整合性等についてあいまいな部分があるという課題に気がきました。

そこで、まず「各分掌部の取組の徹底」を図るために、3分掌部長と各学部主事で構成するカリキュラム・マネジメント会(CM会)を発足させ、学校全体を見ながら、取組の方向性等を確認し進めていくようにしました。資料2に示すように3分掌部の取組を、より具体的に示し、職員が取り組むべきことを丁寧に説明しながら、全職員で実践に取り組みました。特に、本校の「教育目標」や「校訓」と児童生徒の実態に応じた「身につけてほしい力」「将来像」の関連性や系統性について、全職員で意見や考えを出し合い、検討しながら「授業づくりの過程」(資料4参照)を作成しました。



## CM会 (メンバー: 研究部長、教務部長、進路地域支援部長、小中高主事、教頭)

資料2



また、3分掌部を中心とした3年間の校内研修等により職員対象の専門性チェックリスト(資料3)に示すとおり、基本的な専門性の知識・技術は身につけていると感じている職員が増加しています。

つまり、資料4の「授業づくりの過程」を明確にしたことと職員の専門性の向上が図られたことにより授業づくりのPDCAサイクルが機能し、学校教育全体の流れがスムーズになり、教育目標の達成ができるようになってきたと考えます。

### 3 講演

西九州大学心理カウンセリング学科の古川勝也教授に、昨年度末から研究について御助言をいただきながら、授業改善を進めてきました。公開研当日には「新学習指導要領の方向性を踏まえた授業づくり」という演題で講演をいただき、育成すべき資質・能力の三つの柱や次期学習指導要領の方向性について多くの示唆を得ることができました。



### 4 おわりに

職員数も少なく、教職経験も浅い職員が多い本校では、職員一人一人が「チーム苓北」の一員としてすべきことをし、一歩ずつ歩みを進めてきました。

現在、児童生徒も保護者も職員も、みんなが同じベクトルで日々学習に取り組んでいる姿が見られることが研究の成果と考えます。

これからも、児童生徒の自立と豊かな生活を目指し、熱い「チーム苓北」であり続けていきます。

